

## 西成プラザ 生活困難支援の老舗西成での実践を世界発信

### 脱貧困をめざした居住支援の ソーシャルビジネスを知る連続ワークショップ

釜ヶ崎をはじめとする西成区北部には、社会的に有利でない状況が集積しています。釜ヶ崎の一角に集会・研修のスペースを持つ本プラザは、多くの公的組織、NPOと連携し、地域の諸活動に関わりながら、都市問題の本質を社会に伝える、実践的な研究ネットワークから構成されています。

野宿生活者からネットカフェ難民、ワーキングプア、ニート、そして派遣切りと、ホームレス現象は著しく拡散し、こうした居住困難者に対する一時的居住支援は急速に注目されてきた。西成プラザの中核であるJR新今宮駅、地下鉄動物園前直近のスペースは、あいりん地域の簡易宿所経営者から提供されている。簡易宿所も日雇労働者の一時的な中間施設であり、第3ユニットの研究テーマも、こうした中間施設の運営実態、利用者のニーズ、社会的・経営のミッションに関してきた。

社会福祉法人はこうした居住困難層の中間施設経営には手を出しかね旧来の福祉産業はこの分野では成立していない。大部分はNPOか一部のソーシャルビジネスがこの分野に進出し、歴史はまだ10年に満たないという状況である。加えて、メディアのセンセーショナルな貧困ビジネス的なとらえ方により、社会保障の制度の抜け穴をカバーをしている公益性の高い重要なソーシャルビジネスであるにもかかわらず、成立したばかりのビジネスマーケットが白眼視され、全体像すら提示できていない厳しい状況にある。

第3ユニットは西成プラザを利用しながら、1月より【連続ワークショップ】セイフティネット不全を克服するハウジング供給のアクティブな試み -- ホームレス・ジョブレスの危機への対応、と称して4回開催した。(株)アプリシエイト(あいりん)、NPOサポーターハウス協議会(あいりん)、NPOエスエスエス(首都圏)、NPOふるさとの会(東京)に話題提供いただいた。10月9日にはこうしたテーマで全国シンポジウム(市川市)を行う予定である。 << 水内俊雄(都市研究プラザ教授)

### カマン!メディアセンター、オープン

日雇い労働者のまちとして知られる大阪・西成(釜ヶ崎地域)で、地域の文化発信プロジェクトが動き始めた。その拠点として、カマン!メディアセンターを開設。西成プラザ、NPOコカールーム、研究者、アーティストなどでプロジェクトチームを結成し、世界の釜ヶ崎を発信していく。拠点は、商店街空き店舗を利用。企画のひとつとして、1970~90年代の釜ヶ崎地域の写真を街頭テレビで公開する。

6月1日のオープニングでは、地域の高齢者が活躍する紙芝居劇の公演や、歴史、まちづくり、アートなどの切り口でリレートークを繰り広げる。商店街の人や、障がい者、大学生らもまじり、世代や地域を橋渡しするようなコミュニケーションがさっそく生まれていた。

地域情報の収集から編集、発信を繰り返し、つながりを広げよう深めようと試みる「カマン!メディアセンター」。文化創造と社会包摂の間を行き来する実践である。 >> 平川隆啓(西成プラザRA)



カマン!メディアセンター